

環境への対応

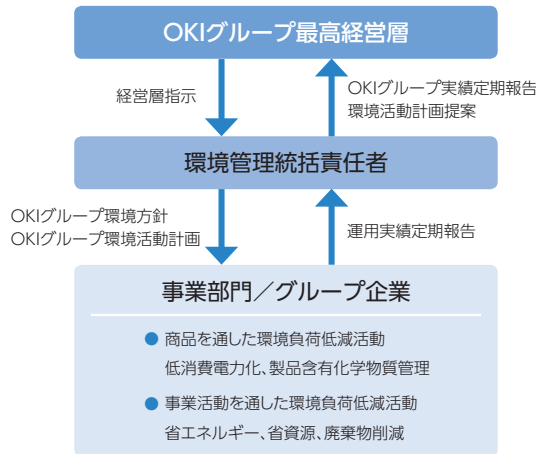
OKIグループは、次の世代のためによりよい地球環境を実現し、それを継承していきます。そのため、OKIグループ環境ビジョン2020(p12参照)の目標達成に向けて、環境経営の基盤となる環境マネジメントシステムをグループ全体で統合し実践しています。



OKIグループ環境活動のシンボルマーク

OKIグループ環境経営推進体制

OKIグループは、事業上の重要課題であるOKIグループ環境ビジョン2020の4つのテーマごとに環境活動計画を策定してマネジメントを実践し、商品および事業活動を通して環境負荷を継続的に低減する活動に積極的に取り組んでいます。



OKIグループ環境方針

OKIグループは、情報社会の発展に寄与する商品・サービスの提供を通じて、次の世代のために、より良い地球環境を実現し、それを継承する。

- OKIグループ環境経営の実践により、施策効果の最大化を目指す。
 (1) 商品の企画から製造・保守運用に至るまでのすべての業務プロセスにおいて、環境配慮型商品とサービスの提供に取り組む。
 (2) 事業活動において、省資源・省エネルギーに努め、廃棄物の削減・リサイクルに取り組む。
 (3) 生物多様性の保全と持続可能な利用に取り組む。
- 適用される環境法令、条例および同意する顧客要求等その他の要求事項を順守し、汚染の予防に努める。
- 環境マネジメントシステムのPDmCA(Plan-Do-multiple Check-Act)を的確に実行し、環境パフォーマンスの向上と運用システムの継続的な改善に取り組む。
- 環境に関する情報の開示に努めるとともに、環境活動支援を通じて、広く社会に貢献する。

OKIグループの主な環境活動計画（2012年度）目標と実績

環境ビジョンの該当テーマ	活動項目	2015年度目標	2012年度目標	2012年度実績		
				結果	評価	参照ページ
商品 汚染の予防	化学物質マネジメント/運用改善 ・国内外の化学物質規制 ・業界標準変更などへの対応	国内外の法規制のロードマップに対応した化学物質管理手順整備	法改正・業界情報を化学物質管理手順書に反映しグループ内へ展開、運用	化学物質管理手順書を改訂し運用開始	○	14
			サプライヤCMS*評価手順を主要サプライヤへ展開	主要サプライヤへ展開するとともに、手順書の一部を改訂		
事業活動 低炭素社会の実現	低消費電力化に関する法令、業界の取り組みへの適合	CO ₂ 排出抑制貢献量拡大の中期目標達成	化学物質の調査効率向上のための機能を全社展開	調査機能追加完了 全社への展開開始	○	ウェブサイト
			新エコプロダクツ認定基準への新規登録5件以上	新規登録9件		
資源循環	事業活動におけるエネルギー起源CO ₂ 排出量削減 (高効率機器の導入、運用見直しなど)	原単位 -3%以上 (2012年度比)	原単位 -1%以上 (過去5年度平均比)	原単位 -4.9%	○	13,25,26,27
			生産時における新規投入資源の削減	新規投入資源削減およびリサイクル率向上の中期目標達成		
環境経営 生物多様性保全	生物多様性マネジメント体制構築、運用	生物多様性の評価手順策定・展開	方針の明確化 マネジメント体制構築	方針策定 体制を構築し活動開始	○	15
			OKIグループ環境マネジメントシステムの効率化	環境ビジョンの各テーマの中期目標達成		

* CMS: Chemical Management System (化学物質管理体制)

商品を通じた環境への貢献

OKIグループは情報技術(IT)を担う企業として、ITにより低炭素社会の実現に貢献する商品の研究開発を進めています。

自動運転による燃費向上とエコドライブの推進

OKIは、「高信頼性車車間通信技術」を開発し、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)が実施した「エネルギーITS推進事業」において、大型トラック4台による車間距離4mでの自動運転・隊列走行の実験に



車間距離4mの自動運転・隊列走行の様子

参画しました。

これまで培ってきた安全運転を支援する「車車間通信技術」をベースに、通信品質の目標値を約100倍高く設定しました。さらに信頼性を向上するため、光を通信メディアとした光車車間通信をサブシステムとして、電波による車車間通信との二重化を図りました。

本技術により、不必要な加減速や渋滞などによる無駄な燃料消費を軽減する自動運転や、車間距離を詰めることで空気抵抗を低減する隊列走行など、省エネルギー走行が可能となります。なお、この実験の成果は、NEDOより2013年2月25日に公開されました。

事業活動における環境保全への貢献

OKIグループの各拠点では、さまざまな省エネルギーや省資源活動を推進し、低炭素社会の実現や資源循環につながる活動に取り組んでいます。

長野OKIの省エネルギー、省資源の取り組み

長野県小諸市にある長野OKIは、2012年7月に省エネルギー対策として工場の屋根に遮光断熱素材を敷設し、空調の効率化を図ることにより、7月の消費電力量を前年度比14%削減しました。工場内は、さまざまな生産設備からの熱や太陽光で熱せられた屋根により、夏季は空調による冷房が不可欠です。



遮光断熱素材を敷設した工場

今回、導入した遮光断熱素材は、太陽光を遮蔽する目の細かいポリエステル難燃糸製のネットです。工場の屋根に水平に敷設することで屋根表面

への熱の伝わりを抑え、かつ、ネットと屋根の間に溜まった熱を逃がすことにより、工場内の温度上昇を防ぎます。敷設後の工場内の室温は、敷設前と比較し約3℃低下しました。

このほか、工場などの窓に遮光フィルムを貼るなどの対策を行い、2012年の7月は全体で昨年度の8.7%にあたる4万kWhの消費電力を削減しました。

一方、省資源の取り組みとして、同社では2012年、鉛フリーはんだのリサイクルを開始しました。鉛フリーはんだ再生装置により、使用後の鉛フリーはんだが酸化した部分を取り除き、非酸化部分を再利用しています。2012年度のリサイクル率は39%となりました。



鉛フリーはんだ再生装置

環境スキルアップ

OKIグループでは、環境への意識と活動レベルの向上を目的に、環境教育をグループ全体で毎年実施しています。また各拠点においても、事業内容に応じたさまざまな環境教育を行っています。

OKIグループ全体での環境教育

一般教育 (e-ラーニング)	専門教育 (e-ラーニングまたは集合研修)	内部監査員教育 (集合研修)
・ISO14001導入目的 ・OKIグループ環境方針、活動計画など	・製品含有化学物質管理 ・産業廃棄物/使用済み製品の処理 ・eco検定セミナー	・監査員養成研修 ・リーダー監査員養成研修 ・監査員リフレッシュ研修

環境汚染などへの対応

地下水汚染・土壌汚染

OKIグループでは、事業場に観測井戸を設置し、地下水の監視を実施しています。2012年度の土地取引にあたり調査した結果、埼玉県蕨市のOKIシステムセンターに土壌・地下水の環境汚染があることが判明しました。行政へ報告するとともに、環境関連法令に則り適切な対応を実施しています。

環境事故・クレームなど

2012年度、環境に係る事故や重大なクレームは発生しておりません。これらの事象が発生した場合は、影響を緩和する処置を行うとともに、是正予防処置のルールに従い原因を究明して再発防止策を実施します。さらに、外部コミュニケーションのルールに従い、適切な開示を実施します。